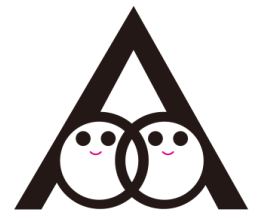


(中学3年生版)

Be Yourself ～あなたらしさを大切に～



男女共同参画都市あおもり

男女共同参画って何だろう

「男女共同参画社会」について、「男女共同参画社会基本法」第二条で、次のように定義しています。

四角囲みの言葉は男女共同参画のキーワードです。

①男女は、社会の対等な構成員です。

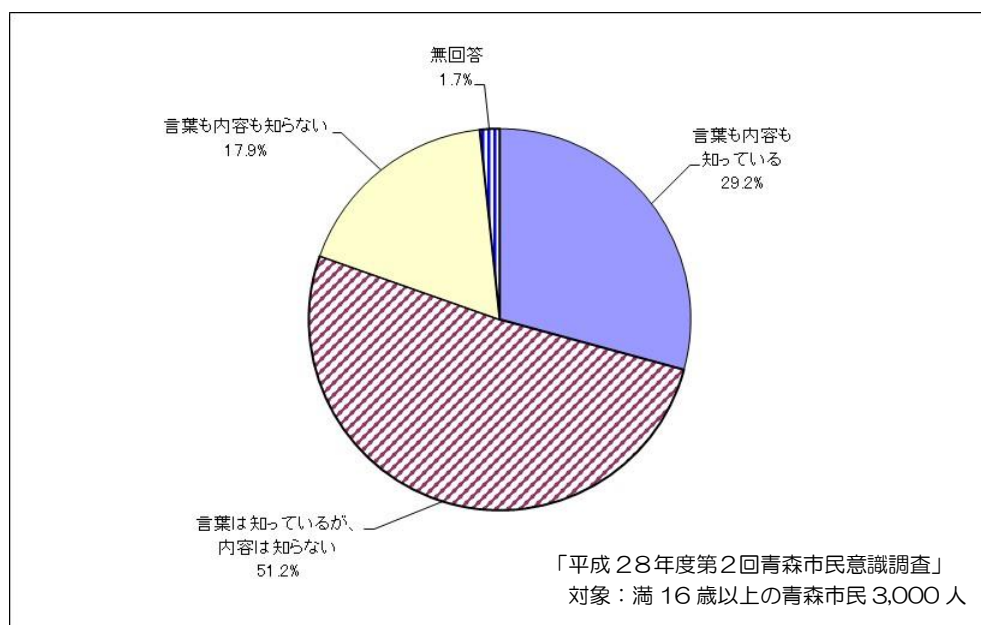
ですから、②男女は、自分の意思で社会のあらゆる分野における活動に参画*する機会が確保されます。

それによって、③男女は、均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を受け取ることができ、同時に男女共に責任を担います。

*「参画」とは、単に参加するだけでなく、自ら進んで責任を持って関わることをいいます。



Q.「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか？



男女共同参画はどうして必要なの？

男女共同参画の考え方の根本にあるのは、男女の人権が尊重され、男女差別をなくすことです。そして、参画を進めると、「一人ひとりの豊かな人生」が見えてきます。

日本では長い間、政治や経済活動を決定する過程に女性はほとんどいませんでした。これは、男女の性別による固定的な役割分担意識にとらわれていたからです。しかし、女性の参画が進んで多様な人材が活躍するようになると、今まで明らかにされてこなかった不都合が見えてきただけでなく、経済活動の創造性が増し生産性が向上することがわかりました。また、働き方の多様化が進み、男女がともに働きやすい職場環境が確保されるようになると、個人が能力を最大限に発揮できることもわかりました。

◇冊子中「青字※」の説明は14ページ「参考ワード」参照



家庭生活では、家族を構成する個人が互いに尊重しあい協力しあうことが大切です。また、男性の家事・育児への参画が進むことによって、男女がともに子育てや教育に参加できるようになります。

地域においては、男女がともに主体的に地域活動やボランティア等に参画することによって、地域コミュニティが強化されます。

少子高齢化が進むわが国において、男女共同参画社会の実現はとても重要なのです。

「男女共同参画宣言都市 青森」の動き

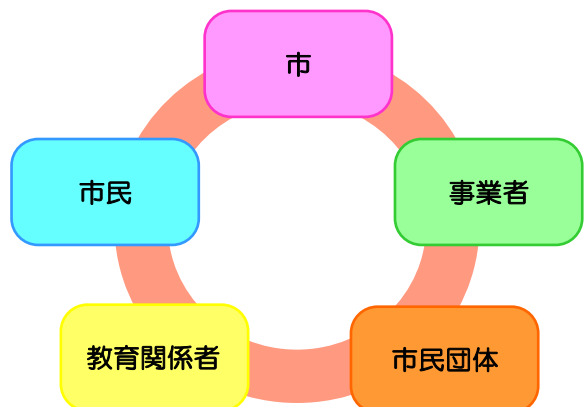
- ◆昭和 48 年 女性労働者の福祉の向上を図ることを目的に、「青森市働く女性の家（愛称：アコール）」（当時は「青森市働く婦人の家」）を設置。
- ◆平成 8 年 全国で 8 番目、東北で 2 番目に「男女共同参画都市」を宣言し、あらゆる分野に男女が共同参画する社会づくりに市を挙げて取り組むことを宣言。毎年 10 月を男女共同参画都市宣言記念月間としている。
- ◆平成 13 年 青森市の男女共同参画社会の形成を図る拠点施設として、「青森市男女共同参画プラザ（愛称：カダール）」を設置。
- ◆平成 14 年 男女共同参画社会づくりをみんなで一緒に考える「日本女性会議 2002 あおもり」を開催、全国から男女共同参画の推進に携わる約 3,000 人が集まった。
- ◆平成 25 年 「男女共同参画都市あおもり」の周知のため、公募によりシンボルマークを作成。
- ◆平成 28 年 今後の青森市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組みの方向を示す「青森市男女共同参画プラン 2020」を策定。
- ◆平成 30 年 青森市の男女共同参画社会の実現を図るため、基本理念（基本的な考え方）や、市、市民、事業者、教育関係者、市民団体の責務などを定めた「青森市男女共同参画推進条例」を制定。



青森市男女共同参画推進条例

男女共同参画社会を実現するためには、家庭、地域、学校、職場など、社会のあらゆる分野での取り組みが必要です。そのためには、市だけでなく、市民、事業者、教育関係者、市民団体のみなさんの主体的な取り組みと相互の連携が求められます。

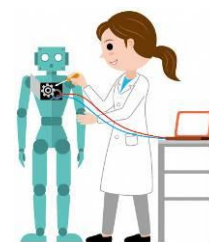
男女共同参画社会の実現を目指して、
みんなで取り組んでいきましょう！



<1> 男女共同参画の拡大のための意識改革

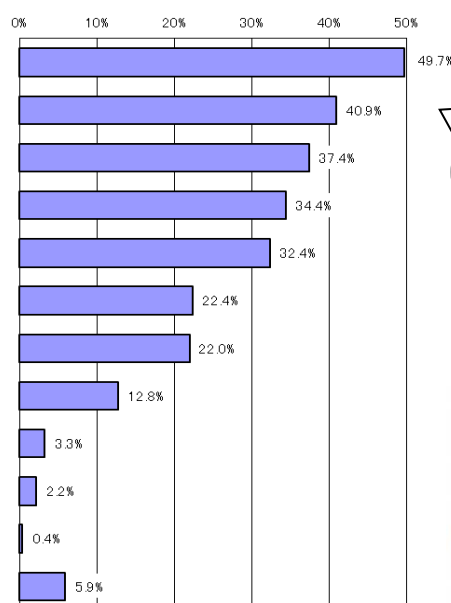
意識を変えよう！

～男らしさ、女らしさよりも、私らしさ～



Q. 男性が家事、育児、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答） <平成26年度第3回青森市民意識調査結果>

- 仕事と家庭生活の両立に関して職場の理解を進める
- 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 子どもの時から男女平等意識を育てる
- 育児・介護休暇を普及させる
- 「男は仕事、女は家庭」といった考え方を改める
- 労働時間の短縮や在宅勤務など自由な働き方を普及させる
- 男性が仕事中心の考え方を改める
- 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- わからない
- その他
- 男性が家事・育児などに参加する必要はない
- 無回答



「抵抗感」は理解が進むことでなくなるね。



家族的責任も職業的責任も男女ともに持つよ

男女の労働者に対して、家族的責任と職業的責任とが両立できるようにしようという国際的な条約があります。ILO(国際労働機関 International Labor Organization)の「家族的責任を有する男女労働者の機会及び待遇の均等に関する条約」(第156号条約)です。1981年にILOの第67回総会で採択され、日本は1995年に批准しました。このとき、日本は、「育児休業法」を「育児・介護休業法」に改正しました。

なお、1956年に出された「家庭責任をもつ婦人の雇用に関する勧告」(第123号勧告)では、家庭責任は女性のみを対象としていました。それまで「女性のみ」だった家庭責任が、第156号条約で「男女両者」になったのです。





「女子差別撤廃条約」は、男女の完全な平等の達成を目指してつくられている

女子に対する差別ってどんなこと？ 「性にに基づく区別、排除又は制限」と定義した条約があります。そして、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のいかなる分野においても差別の撤廃のために措置をとることを求めています。この条約は「女子差別撤廃条約(女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約)」といい、1979年の第34回国連総会で採択され、日本は1985年に批准しました。

この条約が作られた背景には、第二次世界大戦の後、女性に参政権がない国があるなどの女性差別が問題になり、世界でそれを変えていこうとした取り組みがあります。世界平和の維持と人権尊重を目的に設立された国際連合は、女性問題への取り組みを図っていったのです。



「女の子は学校に行けない。本当にやりたい仕事ができない」(2014年ノーベル平和賞受賞決定を受けてのスピーチから マララ・ユスフザイさん17歳)

教育の機会を子どもに与えるための戦いをしていたマララさんは、2012年、下校途中にイスラム過激派「パキスタンのタリバン運動」の凶弾を受け、一時は意識不明になりました。マララさんが住んでいたパキスタンの地域では、女の子は13歳から14歳で結婚します。「女性は家の外に出さない」といった社会的タブーがあり、貧困も女の子から教育の機会を奪っています。マララさんも医者になりたい夢を持っていましたが、あきらめました。しかし、学校へ通い続けることができ、全ての子どもたちが教育を受けるための活動をし、ノーベル平和賞を受賞した今、政治家になりたいと思っているそうです。

2014年のノーベル平和賞は、マララさんと、インドの児童労働問題の活動家カイラシユ・サティヤルティさんに授与されました。

◆マララさんのノーベル平和賞受賞決定を受けてのスピーチから…訳してみましよう

☆She is not only a mother, and she is not only a sister, and she is not only a wife—but she should have an identity, she should be recognized. And she has equal rights as a boy.

☆They(Children) have rights. They have the right to receive quality education. They have the right not to suffer from child labor, not to suffer from child trafficking. They have a right to live a happy life.

☆女性は単に誰かのお母さん、姉、奥さんではなく、女性には自分自身のアイデンティティ*がありますし、それは社会が認めるべきです。男子と同等の権利があります。

☆子どもにもさまざまな権利があります。質の高い教育を受ける権利、児童労働かつ児童売買に苦しまない権利、幸せな人生を送る権利があるのです。(翻訳：平成27年青森市国際交流員 クリストファー・オアー)



※平成27年に沖館中学校の美術部だった
工藤 愛心(あみ)さんが描いたイラスト

*アイデンティティ=個性、独自性、自己同一性など

＜2＞ 男女共同参画の視点に立った行動改革

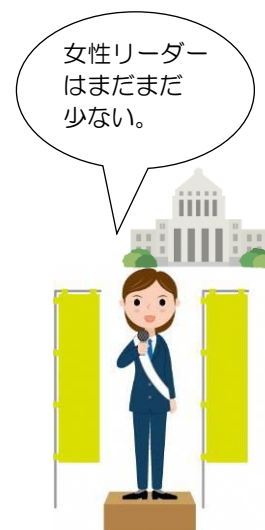
積極的に女性の登用を！

～指導的地位に占める女性の割合を30%程度に(国の目標)～

この目標は、2020年代の可能な限り早期に達成することとしています。
さて、現状はどうでしょうか。

◆職業別に見た女性リーダーの割合(例)

職業	全体の数(人)	女性の数(人)	女性の割合(%)	備考
衆議院議員(全国)	465	48	10.3	R5.4 現在
参議院議員(全国)	248	66	26.6	R5.5 現在
県議会議員(青森県)	44	3	6.8	R5.3 現在
市議会議員(青森市)	32	9	28.1	R5.4 現在
医師(全国)	323,700	73,822	22.8	R2.12 現在
医師(青森市)	642	116	18.0	R2.12 現在
青森市立小学校長	42	5	11.9	R5.4 現在
青森市立中学校長	19	3	15.7	R5.4 現在
青森県立高等学校長	46	7	15.2	R5.4 現在
青森市役所管理職	250	40	16.0	R5.4 現在



目標実現に向けて、ポジティブ・アクション

上の囲みの中の数字を見てわかるように、指導的地位*にいる女性はごくわずかです。日本では指導的地位にいる女性はまだまだ少ないのです。

2022年に発表された調査(男女格差を数字でとらえた「ジェンダー・ギャップ指数*」)では、146か国中、日本は116位でした。日本は、健康的な寿命は63位、識字率や中等教育への進学率に関する順位は1位です。しかし、経済参加は121位、政治参加は139位。それで、全体で116位という結果になっています。ちなみに、2021年は、156か国中120位でした。

そこで、男女の格差を少なくするために、「ポジティブ・アクション*」という措置が取られています。ニュースに登場する「女性管理職を〇%に」という取り組みはこの現れです。男女共同参画社会は、男女が「対等に、均等に、共に」つくっていく社会ですから、女性をもっと活躍できるようにしていくことが大事です。

- *「指導的地位」とは、(1)国会議員、(2)法人・団体における課長相当職以上の者、
(3)専門職・技術的な職業のうち、特に専門性が高い職業に従事する者



↑ポジティブ・アクション普及促進のための国のシンボルマーク



沖澤のどかさんインタビュー “自分はこの程度”と決めつけずに挑戦して

「女性は指揮者になれない」と言われた時代がありました。現在も、世界の舞台に立つ女性の指揮者は、数えるほどしかいません。こうした世界に果敢に挑戦しているのが、わがまち青森市出身の沖澤のどかさんです。

沖澤 のどかさん

指揮者 青森市出身。ベルリン在住。篠田小学校、沖館中学校、青森東高等学校を経て、東京芸術大学音楽学部指揮科を首席で卒業後、同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリン修士課程オーケストラ指揮専攻を修了。2018年、東京国際音楽コンクール(指揮)で優勝。女性初、日本人としても18年ぶりの快挙を成し遂げる。2019年には若手指揮者の登竜門としても世界的に知られるブザンソン国際若手指揮者コンクールで優勝。同コンクールで日本人としては、1959年に小澤征爾さんが初優勝して以来、10人目の優勝、女性としては2人目の優勝。



【指揮者への道】 ～失敗できるようになることが成長の鍵～

幼い頃から自分の感情を表に出すことが苦手で、ピアノを弾いている時だけは自由になれる感覚がありました。

高校2年の時、語学研修でシドニーへ行った際にそれまで卒にはまった考え方がしていなかった自分に気付き本当にやりたいのは音楽しかないと思えるようになり、東京芸術大学指揮科を受験しました。

大学に入ってすぐは周り比べてしまって劣等感に苛まれ、先生から才能がないからやめた方がいいと言われて休学してこともあります。それでもこれまで続けてきたのは、音楽に対する情熱に突き動かされてのことです。応援してくれる方々や才能があると言ってくれる方々、同じく指揮者を目指す仲間存在も大きいです。

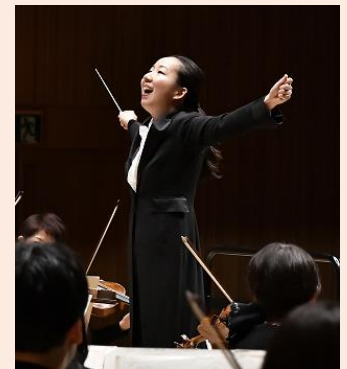
挑戦して失敗する中で、少しでも手応えがあればそれが自信となり、さらに難しいことに挑戦できるようになります。余計な見栄を捨てて失敗できるようになることが成長の鍵なのだと思います。

【世界の舞台への挑戦】 ～どんな人間になりたいか～

大きな夢を持っていたという感覚はありません。上達するには次に何が必要かを考えて少しずつ前に来たという感じで、実際の歩みは実に地味なものです。

私の父は、高校卒業後すぐに働き始め家庭を支えてきました。夜遅く仕事から帰ってきてから夜中まで勉強をして、高卒では異例の成績を収めてきた父をととても尊敬しています。「将来何になりたいか」という質問は職業を指すことが多いと思いますが、「どんな人間になりたいか」と考えるとそこには何の制限もありません。

大きな夢でも小さな夢でも、自分で考えて決めたことをコツコツ続けることで、自信を持てるようになります。



【沖澤さんからのメッセージ】 ～自分の意思で行動すると、確実に自分の力になる～

どんなに難しく思えることでも、必要なことを細かく分けて取り組めば、時間はかかっても近づけるはず。自分はこの程度だろうと決めつけずに、何かに挑戦してみてください。自分の意思で行動すると、確実に自分の力になりますし、成功した時には大きな自信になります。もちろん、わかりやすい成功と失敗だけがあるわけではなく、周りから見える結果と自分の中での手応えが全く違う場合もあります。世界的指揮者のリッカルド・ムーティ氏にそのことを打ち明けたら、「Be yourself!(あなたらしくいなさい)」と励ましてくださいました。自然体で正面からぶつかることで、自分なりの方法が見えてきて、オーケストラとのコミュニケーションも取りやすくなったように感じます。

若いうちは自分らしさとは何かということに悩むかもしれませんが、大いに悩んでください。情報として知ることと、自分自身で体験することは全くの別物です。どんな情報でもすぐに手に入る今の時代こそ、生の体験、生身の人間との対話を通して初めて自分らしさというものが見えてくるのだと思います。

自分の常識が通用しないところに思い切って飛び出してみたり、自分と価値観の違う人たちとたくさん話したりして、どんどん自分の世界を広げてください！

【令和2年インタビュー】

《3》 労働環境における男女共同参画の促進

男女ともに働きやすい環境を！

～仕事も生活も、めいっぱい楽しめる社会に～

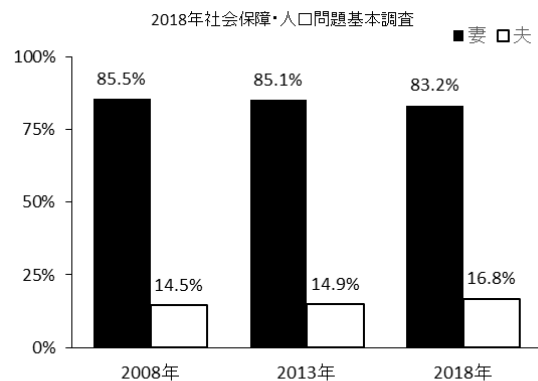
①6歳未満の子どもをもつ夫の家事・育児時間(1日あたり)

	家事関連時間全体	うち育児時間
日本	1時間23分	49分
アメリカ	3時間07分	1時間11分
イギリス	2時間46分	1時間00分
フランス	2時間30分	40分
ドイツ	3時間00分	59分
スウェーデン	3時間21分	1時間07分
ノルウェー	3時間12分	1時間13分

(内閣府資料。総務省平成28年「社会生活基本調査」)

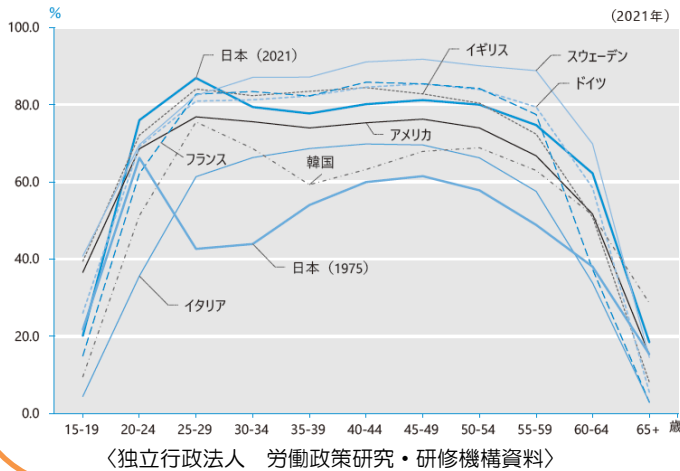
②妻と夫の家事分担割合

(国立社会保障・人口問題研究所)



③女性の労働力率はM字(型)カーブ

日本の女性の労働力率は、結婚・出産期にあたる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するM字(型)カーブを描いているものの、以前よりもカーブは浅くなっており、M字の底となる年齢階級も上昇している。



少子化が問題になっている日本。お父さんが育児・家事をするかどうか、2人目の赤ちゃんの出生に影響していると国では分析している。



労働環境の大きな課題—長時間労働と経済的自立が困難な女性の割合の高さ



子育て期にある30代及び40代男性では、約10人に1人が週60時間以上の就業をしています。そして、表①にあるように、家事・育児時間が少なく、育児時間は欧米諸国の半分程度、家事の時間を加えても1日平均1時間半程度で欧米諸国の3分の1程度です。「イクメン[※]」が登場してきましたが、男性の育児参加は欧米諸国ほどには進んでいないのです。

一方、表②からわかるように、女性は家事・育児負担を抱えることとなります。そのためあって、第一子出産後の退職(女性の労働力率「M字(型)カーブ」表③)や短時間労働を選ぶことが多くなり、結果的に女性の収入が男性より大幅に少ないという状況を招く大きな要因となっているのです。このことと、シングルマザー家庭の経済困窮や女性の貧困は大きく関係しています。

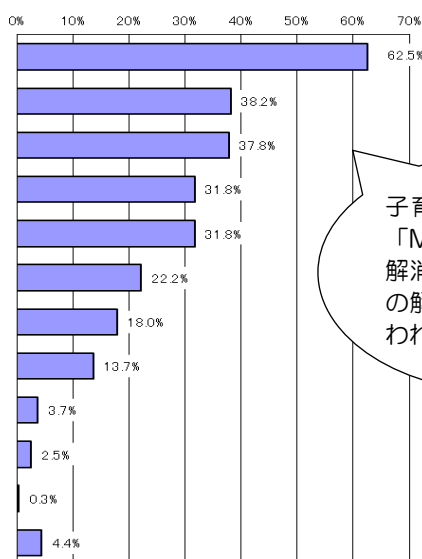
労働環境を整えるためには、育児や介護のサービスの確保・向上も重要です。



<参考> 正社員女性の賃金は男性の78%(令和4年厚生労働省統計)。経済的自立が難しいといわれる年収200万円以下の割合は女性36%、男性10%(令和3年国税庁民間給与実態統計調査)。

Q. 女性が結婚や出産後も働き続けたり、再就職するなど社会参画を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答) <平成26年度第3回青森市民意識調査>

- ・ 保育所・学童保育などの子育て環境を充実させる
- ・ パートタイマーの労働条件の改善や再雇用制度の充実を図る
- ・ 男性の家事・育児参加を促し、家事の負担を軽減させる
- ・ 労働時間の短縮や在宅勤務など自由な働き方を普及させる
- ・ 育児・介護休暇を普及させる
- ・ 福祉施設・在宅介護サービスを充実させる
- ・ 昇進・昇給などに関する男女格差を是正する
- ・ 自己啓発・能力開発につながるような学習機会を充実させる
- ・ わからない
- ・ その他
- ・ 女性が社会参画する必要はない
- ・ 無回答



子育て環境の充実が、「M字(型)カーブ」の解消や「女性の貧困」の解消につながると思われます。



仕事も生活も楽しめる働き方にするには

長時間労働で心身が疲労し健康を害しかねない、仕事と子育てや老親等の介護との両立に悩む、少子化が止まらない、そういった現状を打破するために、国では「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の普及に取り組んでいます。国民運動として、「仕事と生活の調和」の実現に向け、「ひとつ『働き方』を変えてみよう! カエル! ジャパン」というキーワードを設けたり、ワーク・ライフ・バランスを推進する会社を支援したりしてひとつ「働き方」を変えてみよう! います。(左は国のシンボルマーク)



仕事も生活も楽しめる働き方をするによって、個人も会社も共に成長することを目指しています。

農林水産業や自営業でも男女共同参画を推進

農林水産業等において経営の多角化や「6次産業化*」「家族協定*」などの仕組みを通して女性の能力発揮と就業環境の整備を進めています。



◀4▶ 地域生活における男女共同参画の推進

みんなが元気に暮らせるまちを！

～考えよう！ 地域のこと、健康のこと～

- あなたは、この1年間にNPOやボランティア、町（内）会などの社会活動に参加したことがありますか？

〈令和3年度市民意識調査〉

対象：満16歳以上の青森市民3,000人

参加したことがある・この1年間でないが、参加したことがある	34.9%
参加したいと思っているが、参加したことはない	37.3%
参加したいとは思わない	27.2%
無回答	0.6%



- 町（内）会や自主防災組織などにおいて、住民の自主的な防災訓練などが行われていますが参加したことがありますか？

〈平成25年度第3回市民意識調査〉

対象：満16歳以上の青森市民3,000人

いつも参加している	2.5%
以前、参加したことがある	7.0%
参加したことはない	90.1%
無回答	0.4%



- 青森市の平均寿命

（厚生労働省平成27年市区町村別生命表）

	平均寿命	県内順位	全国順位* ワースト	全国の 平均寿命	全国と 青森市の差
男性	78.9年	10位	50位	80.8年	1.9年
女性	85.7年	32位	23位	87.0年	1.3年
男女差	6.8年	—	—	6.2年	—



*全国1,888市区町村中

地域と連携したボランティア活動

ボランティア活動は、子どもたちにとって、社会の一員であるという自覚と役割の意識を高め、社会の中でともに生きる豊かな人間性を培う大切な活動です。

青森市の小中学校では、保護者や地域と連携した地域清掃活動や募金活動、プルタブ・エコキャップ回収などのリサイクル活動、町（内）会や子ども会と協力して行うねぶた運行など様々なボランティア活動を行っています。部活動や有志等による自主的な取り組みも増え、社会の一員であることを実感するとともに、思いやりの心や奉仕の精神などの道徳性を育てています。

東中の避難所運営訓練！



防災について熱心に聞き入る生徒たち

東中学校では、平成26年度から生徒・教職員・地域住民が参加し、避難所運営訓練を行っています。

防災教育プログラムや避難所運営マニュアル作成、男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営を行い、平成30年度には、毎年1月に兵庫県で開催されている「ぼうさい甲子園」において、先導的な取り組み及び初応募の優れた取り組みに対して授与される「フロンティア賞」を受賞しました。

（内容は令和2年度時点のもの）



運営マニュアル作成



災害用非常食「アルファ化米」



段ボールベッド設置

非行防止だけでなく、ボランティア活動にも「JUMP」大活躍！

小・中・高の各校で結成されている「少年非行防止（リトル）JUMP チーム」は、規範意識の醸成を図るために、非行防止についての呼びかけや、学校の仲間や地域の方々と一緒に「非行防止の輪」を展開しています。「JUMP」は、21世紀を担う青森県の少年がさらに飛躍し、大きく「ジャンプ」してほしいとの願いで名づけられました。（右はシンボルマーク）



運動習慣とバランスのとれた食事で「短命」返上

—健康を支援する地域づくり、子どもの健康づくりが重要です—

青森市は全国に比べて平均寿命が短く、男性が全国ワースト50位、女性が全国ワースト23位となっています。その要因は生活習慣病による死亡が約6割弱を占めています。

また、子どもの肥満は将来の肥満や生活習慣病に結びつきやすいため、子どもの頃から運動習慣を持ち食事バランスに気をつけることが大切です。

市民の健康はまちの活力です。地域や学校、企業、行政等が互いに連携し、社会全体で支え合いながら健康づくりに取り組むことが必要です。



《5》 男女平等と人権の尊重

暴力のない、誰もが尊重される社会を！

～思いやる気持ち、忘れていませんか？～



暴力は絶対してはいけないこと！ 家庭でも学校でも。人にも動物にも。中学生の今だからこそ、相手を思いやるという気持ちを培い、社会を支える一人の人間として成長していかなければなりません。

＜青森市の児童虐待相談件数＞

(単位：件)

	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	ネグレクト*	合計
令和元年度	33	0	27	38	98
令和2年度	19	0	25	39	83
令和3年度	22	0	21	40	83

(令和4年度版 青森市健康福祉要覧より)



デートDVを知っていますか？

DVとは、夫婦や恋人など、親しい関係にある男女の間で起きる暴力「ドメスティック・バイオレンス」のことです。DVは大人だけの問題ではありません。10代や20代の若い世代でも起きています。それが「デートDV」です。相手を暴力的な言動によって威圧して自分の思いどおりに支配・コントロールしようとする行為です。

たとえば・・・

○身体的暴力

- ・殴る ・蹴る ・物を投げつける
- ・髪を引っ張る ・つねる
- ・突き飛ばす など

○精神的暴力

- ・大声でどなる ・意見に従わないとイライラして怒る
- ・無断でメールをチェックする ・交友関係を制限する など



束縛は愛じゃない！

デートDVは、相手を対等な存在として認めず、自分の思い通りにさせるために暴力で相手を支配しようとする時に起こります。暴力は重大な人権侵害であり、どんな場合でも決して許されるものではありません。

●市では、中学校の生徒や教員、保護者を対象とした各種出前講座で、デートDV予防啓発教育を実施しています。また、中学生を対象とした県のDV予防啓発セミナーでは、男女間の暴力について正しく理解し、被害者や加害者になることを未然に防止するため、参加型体験学習（ワークショップ形式等）を行っています。



「思春期の心と体～私も大事、あなたも大事～」

～思春期教室～パパママ体験教室～新城中学校の取り組み～

新城中学校では2年生とその保護者、地域関係者を対象に学校保健委員会の一環として思春期教室を開催しています。平成28年度からは青森市保健所の保健師、栄養教諭、運動指導者等の体や心の専門家を招いて、ワークショップ形式で実施しています。将来の父親、母親になる可能性を持っている生徒に対し、生命の尊厳と性に関する正しい知識を身につけてもらうことによって、お互いを尊重し、自分のことも相手のことも大切にしようとする意欲と態度を養うことを目的にしています。また、2年生での思春期教室での学びを踏まえ、3年生では家庭科の授業としてパパママ体験教室を実施しています。妊婦体験ジャケットを着用し、実際に活動してみることで妊婦の大変さを体感したり、赤ちゃん人形の抱っこ、着替えやおむつ替えを体験することで、赤ちゃんの重さや体の特徴、育児の大変さ、親としての責任を実感します。また、自分が将来、子どもにどのような名前をつけるか考え、発表するなど、充実した内容となっています。〈内容は令和2年度時点のもの〉



↑保健師の講演に聞き入る生徒たち



～妊婦体験コーナー～
靴下をはくのも大変。
将来はパートナーを助けてあげたい。



～お着替えコーナー～
首がグニャグニャして
着替えが大変。でも、だんだん
だんかわいく思えてきた。

(アンケートより)



ひとりで悩まず相談してみましよう

- ◆中学校の保健室は身近な相談場所です。
身体のこと、友達のこと、家庭のこと、どんなことでも話してみましよう。
- ◆「青森市子どもの権利相談センター」は、18歳未満の子どもの権利侵害について、子どもも大人も相談できます。電話 0120-370-642 (受付：平日 10時～18時)
Eメール：ao-kodomokenri@city.aomori.aomori.jp

<令和3年度の相談件数は317件(*1案件に相談者複数の場合あり)>

小学生	中学生	高校生	教職員等	父又は母	その他
10件	37件	69件	11件	173件	17件
3.1%	11.7%	21.8%	3.5%	54.6%	5.3%

<令和3年度主な相談内容>

いじめ	心身の悩み	子育ての悩み	学校等の対応	指導上の問題	家族の問題
6.9%	21.4%	21.7%	10.7%	7.8%	13.5%



- ◆「あおもり思春期研究会」は、10代の恋愛と性の電話相談を受けています。保護者も相談可。
相談日 毎週火曜日(祝日除く) 17:00～20:00 電話 017-765-4112

アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）チェック

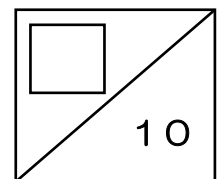
～あなたにもあるかも？性別による無意識の思い込み～



自分の考えに合うものに○をつけてみましょう



1. 男性は人前で泣くべきではない
2. 女性は感情的になりやすい
3. 男性は気を使う仕事やきめ細かな作業は向いていない
4. 女性には女性らしい感性がある
5. 学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている
6. 部活のマネージャーは、女子の方が向いている
7. 女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない
8. デートや食事のお金は男性が負担すべきだ
9. 男性は仕事をして家計を支えるべきだ
10. 家事や子育ては女性がするものだ



あなたは、いくつ○がありましたか？
どうして○をつけたか？みなさんで考えてみましょう。

※アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）とは、自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいい、自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」と呼ばれます。

性別による無意識の思い込みはまだ根強く、それに基づく働き方や慣習・慣行が見られるところですが、一人でも多くの方が、そのことに気づくことが重要です。

参考ワード

- ◆**イクメン**…子育てをする男性（メンズ）の略語。積極的に子育てを楽しみ、自らも成長する男性のこと。
- ◆**家族協定**…家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやりがいを持って経営に参画できる魅力的な農業経営をめざし、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき、取り決めたもの。
- ◆**ジェンダー**…英語。一般的に、生物学的な性差をセックスと言い、「男らしさ・女らしさ」のように社会的・文化的に作られる性別、性差のことをいう。
- ◆**ジェンダー・ギャップ指数**…民間組織の世界経済フォーラム(WEF)が毎年発表している。各国の政治参加、経済参加、健康、教育の分野におけるジェンダーの格差を指数に表したもの。上位は、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドなど、北欧諸国が多い。
- ◆**ネグレクト**…英語。親が子どもに対して、適切な養育を放棄すること。例えば、食事を与えない、子どもの意志に反して登校させない、病気になっても治療を受けさせない等で、子どもの発育不良や精神的な発達に阻害され、人格形成に悪影響を与えるといわれている。
- ◆**ポジティブ・アクション**…英語。社会的構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で、特別の機会を提供することなどにより、実質的に機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のこと。
- ◆**モラルハラスメント**…英語。「言葉や態度によって、巧妙に人の心を傷つける精神的な暴力」の意味で使われている。モラハラと略することもある。外傷等が残るため顕在化しやすい肉体的な暴力と違い、言葉や態度等によって行われる精神的な暴力はわかりにくく、加害者も被害者もなかなか気づきにくい。
- ◆**6次産業化**…第一次産業（農業・水産業）が、第二次産業（食品加工業）・第三次産業（流通販売）も行うようになっている形態のこと。第一次産業の1と第二次産業の2、第三次産業の3を足し算すると「6」になることをもじって作られた用語であるが、現在は、一次・二次・三次産業の足し算ではなく、有機的・総合的結合を図るとして掛け算であるとも言われている。
- ◆**リボン運動**…リボンに託して、いろいろな啓発活動が行われている。

このほかにどんな色のリボン運動があり、どんな啓発に使われているか、調べてみよう。

〈パープルリボン〉

女性への暴力の根絶を訴えるシンボルリボン。94年米国から始まった活動で、現在40か国以上の国際的な草の根運動のネットワークになっている。日本ではNPO法人全国シェルターネットワークが中心となり、パープルリボン活動を展開している。毎年11月12日から25日までは、「女性に対する暴力をなくす運動」期間。



青森市では、クリスマスツリーにパープルのリボンを結ぶキャンペーンを行いDVの根絶を訴えた。

(←女性に対する暴力根絶のための国のシンボルマーク)



(↑平成26年11月、市役所の市民サロン)

〈ピンクリボン〉

乳がんの正しい知識を広めて、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の啓発、研究の助成、患者支援などを行う運動のシンボル。

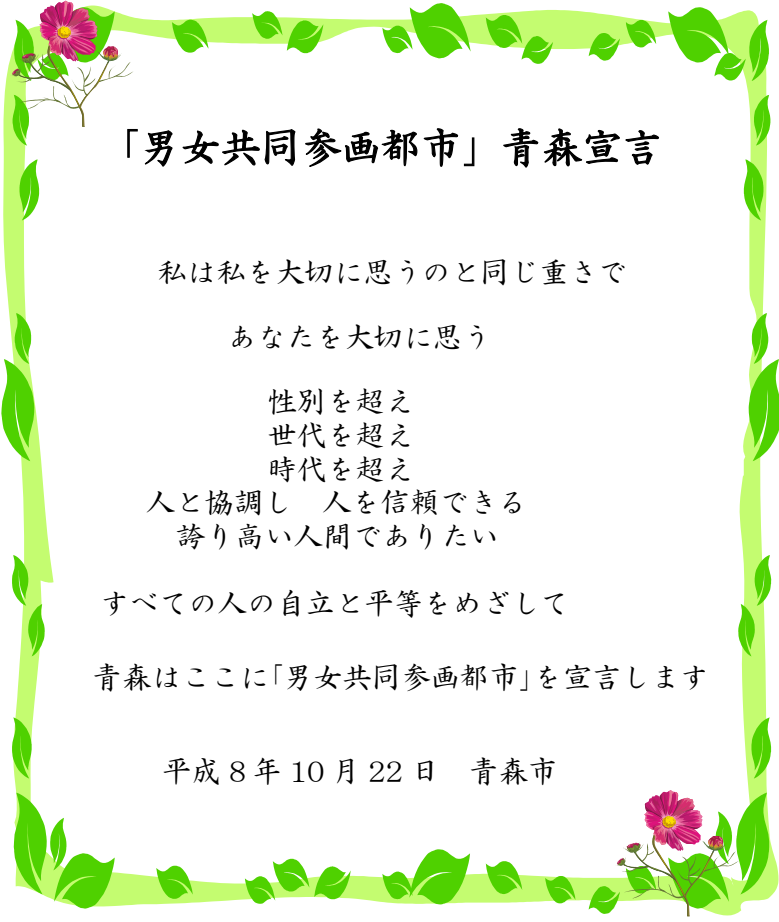
1980年代にアメリカで始まり、日本でも1990年代から取り組みが始まった。全国でピンクリボンの活動が活発に行われ、青森市でも多くの取り組みがされるようになった。国では、毎年10月を乳がん月間としている。

〈オレンジリボン〉

子ども虐待防止のシンボルマーク。2004年、栃木県小山市で3歳と4歳の二人の兄弟が虐待により命を奪われた。2005年、このような事件が二度と起こらないようにという願いを込めて、始まった。

〈レッドリボン〉

エイズへの理解と支援のシンボル。エイズに関して偏見を持っていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージ。古くは、レッドリボンはヨーロッパに伝わる風習の一つで、病気や事故で人生を全うできなかった人々への哀悼の気持ちを表すものだった。1990年ごろ、アメリカでエイズが社会的な問題となり、エイズで亡くなった人々への哀悼やエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すために使われるようになった。



「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで

あなたを大切に思う

性別を超え

世代を超え

時代を超え

人と協調し 人を信頼できる

誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして

青森はここに「男女共同参画都市」を宣言します

平成8年10月22日 青森市

令和5年5月発行

青森市 市民部 人権男女共同参画課

〒030-0801 青森市新町一丁目3番7号

TEL 017-734-2296 FAX 017-734-5765

名前